

花木枝物の紅葉促進に関する試験

第 2 報 環状はく皮処理について

吉田俊一・諸富保司 (大分県温泉熟利用花き園芸試験場)

Shunichi YOSHIDA and Yasushi MOROTOMI : Studies on the Accelerating of Autumnal Tints for Cutting Branch commercially in Ornamental Trees and Shrubs.

2. Effects of Ringing Treatment

ユキヤナギをはじめとする花木枝物について、前報より早い時期の 5～7 月の環状はく皮処理が紅葉促進に及ぼす効果を検討したので、その結果を報告する。

1. 材料および方法

試験圃場は、標高約 400 m の別府市内成の生産者圃場と標高約 170 m の当試験場の 2 か所であった。

供試樹種 (品種) は、標高 400 m の場所ではユキヤナギ (蒲田早生, 在来小葉種), コデマリ (在来種) およびツツジ (大葉熊野) を用いた。標高 170 m の場所ではユキヤナギ (蒲田早生, 早生高性種) およびコデマリ (ミズホコデマリ) を用いた。

ユキヤナギとコデマリは 2～3 月に株刈後萌芽した当年生枝を用いたが、ツツジは 3～4 年生枝を用いた。

紅葉促進処理は枝の基部をペンチで幅 1.5 cm 程度環状はく皮した。処理時期は第 1 表と第 2 表に示す。

区制は 1 区 10 本の 1 区制とした。(ただし、ツツジは 1 区 5 本とした。)

2. 結果および考察

1) 標高 400 m の場合、紅葉促進のための環状はく皮処理時期はツツジ:大葉熊野では 5 月 18 日～8 月 9 日の間ならいつでもよかったが、早い時期の 5 月 18 日と 6 月 7 日に処理したものはほとんどの枝が 10 月 12 日から切枝可能で、紅葉も鮮明で品質よかった。

ユキヤナギは蒲田早生, 在来小葉種とも 6 月 7 日以降に処理するのが紅葉促進のためによいが、6 月 28 日以前の処理では枯死枝の発生が少しみられた。7 月 19 日処理では枯死枝もなく安定しており処理後 70 日目の 9 月 27 日には蒲田早生の一部の枝と在来小葉種の約 50% の枝が切枝可能であった。

コデマリ:在来種では 7 月 19 日以降の処理がよく実用的である。7 月 19 日の処理では約 50% の枝が処理後 83 日目の 10 月 10 日に切枝可能であった。

2) 標高 170 m の場合、枝の生存率が低いのが難点であるが、紅葉促進のための環状はく皮の処理時期は、ユキヤナギ:蒲田早生で 6 月 8 日～7 月 20 日がよく、早生高性で 7 月 2 日～20 日がよかった。2 品種とも 7 月 20 日処理の試験区は枯死枝があったが、太い枝を用いた番外区では全く枯死枝はなく紅葉も試験区より早かった。したがって、ユキヤナギは太い枝 (6 月上旬に基部の太さ 0.5～0.6 cm 以上の枝) を用いて 7 月 20 日頃処理したほうが安定している。

コデマリ:ミズホコデマリは 7 月 2 日～20 日に処理するのが紅葉促進のためにはよかったが、7 月 20 日に処理するほうが枯死枝がなく安定していた。

第 1 表 標高 400 m で栽培のツツジ, ユキヤナギおよびコデマリの紅葉切枝適期

処理時期 区 分	切 枝 適 期			
	ツツジ 大葉熊野	ユキヤナギ 蒲田早生	ユキヤナギ 在来小葉種	コデマリ 在来種
5月17日はく皮区	—	9月27日 ～10月12日 (80%枯死)	切枝不可能 (100%枯死)	—
5月18日はく皮区	10月12日 ～11月8日 (100%生存)	—	—	切枝不可能 (100%枯死)
6月7日はく皮区	10.12～11.8 (100%生存)	9.27(C ₁) ～10.25 (90%生存)	8月30日 ～10月12日 (80%生存)	切枝不可能 (100%枯死)
6月28日はく皮区	10.12(C ₁) ～11.8 (100%生存)	9.27(C ₂) ～10.25 (60%生存)	8.30(C ₁) ～10.12 (100%生存)	10月12日 ～10月25日 (70%枯死)
7月19日はく皮区	10.12(C ₂) ～11.8 (100%生存)	9.27(C ₁) ～10.25 (100%生存)	9.27(C ₂) ～10.12 (100%生存)	10.10(C ₂) ～10.25 (80%生存)
8月9日はく皮区	10.12(C ₁) ～11.8 (100%生存)	—	—	—
無処理区	11.8(C ₁) 以降 (100%生存)	切枝不可能 11.8でも 紅葉不十分 (100%生存)	切枝不可能 11.8でも 紅葉不十分 (100%生存)	11.8(C ₁) 以降 (100%生存)
無処理(向陽地)区	10.25(C ₁)以降 (100%生存)	—	—	—

注) (C₁) は () の前の月日において、一部切枝可能。(C₂) は () の前の月日において、約 50% が切枝可能。

以上のことから、種類により適期は異なるが、環状はく皮により低標高 (400 m 以下) でも良質の紅葉物が生産できることが明らかになった。また、前報 (7 月 20 日以降の処理) より早い時期の処理も可能なことがわかった。

第 2 表 標高 170 m で栽培のユキヤナギおよびコデマリの紅葉切枝適期

処理時期 区 分	切 枝 適 期		
	ユキヤナギ 蒲田早生	ユキヤナギ 早生高性	コデマリ ミズホコデマリ
5月18日はく皮区	切枝不可能 (90%枯死)	切枝不可能 (100%枯死)	ほとんど切枝不可能 10月25日 (90%枯死)
6月8日はく皮区	10月15日(C ₂) ～11月13日 (70%枯死)	切枝不可能 (100%枯死)	ほとんど切枝不可能 10.25 (90%枯死)
7月2日はく皮区	10.15(C ₁) ～11.3 (50%枯死)	10月15日(C ₁) ～10月26日 (70%枯死)	10.25(C ₂)～11.13(C ₁) (70%生存) (D ₁)
7月20日はく皮区	10.15(C ₂) ～10.25 (70%枯死)	10.15(C ₁) ～10.26 (60%生存)	10.25(C ₂)～11.13(C ₁) (100%生存) (D ₁)
無処理区	切枝不可能 11.13でも 紅葉不十分 (100%生存)	切枝不可能 11.13でも 紅葉不十分 (100%生存)	11.13でも切枝不可能

注) (D₁) は () の前の月日において、一部落葉あり。

* 調査対象外の太い枝は 9 月 17 日に切枝可能で 100% 生存していた。